

第17回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 優秀賞 受賞作品

『むけるよむけるよどこまでも』

宮城県

仙台市立吉成小学校

三年 鈴木 歩志

むけるよむけるよどこまでも

仙台市立吉成小学校 三年

鈴木 歩志 (すずき あゆむ)

今年の夏、ぼくは「自転車に乗る」という目ひょうを立てました。運動が苦手なぼくは友だちが自転車であそんでいてもどこ吹く風。きょう味がないうりをしました。

けれども、学校で「ひまん」という通知をもらってから、ぼくの心が変わってきました。このままではいけない、自転車くらい乗れるようにならないと。

ぼくは、お父さんと交通公園で自転車の練習をしました。その日は補助りん付きの自転車に乗りました。小さい子が補助りんなしの自転車に乗り、ぼくを追いぬいていきます。やぶ蚊にたくさんさされたぼくは、「もう帰る」と言ってお父さんを困らせました。

次に行った時は、お父さんが後ろをおさえてくれると言っているので、補助りんなしの自転車に乗りました。ふらふらしますが、少しずつ「ツがつかめてきます。気持ちが大きくなったぼくは一人で乗ることに挑戦しましたが、数メートルで転んでしまいました。すりむいたひざから血が出てきます。ぼくは大声でなきたいのをがまんし、自転車に八つ当たり。「自転車なんて大きい」と言ってお父さんをイライラさせました。

お父さんが次の約束してくれないので、ぼくからさそってみました。やはりお父さんは、前回のぼくの状態が引つかかっているとのこと。ぼくは心をこめてやる気があること、反省していることを伝えました。お父さんは

「今度は乗れるよ。がんばろうな」と、ぼくをばげましてくれました。

またまた暑い日の交通公園。ぼくもお父さんも気合いが入っています。ぼくはお父さんに支えられ、少しずつ乗れるきよりをふやしていきました。今日はお母さんと妹も来ていて、ぼくを応援しています。

どれほどの時間が経ったでしょうか。とうとうぼくは、自転車に乗ることができたのです。歩道ではお父さんがグーサインを出しています。お母さんはこうぶん気味に手をふりながら、ぼくの動画をとっています。妹はぴょんぴょんはねて、目で追っています。

帰り道、お母さんが言いました。

「この夏、あゆはひと皮むけたね」

うれしそうに家で帰ると、育てていたミニトマトの皮がむけていました。そういえば、ぼくのひざのかさぶたも虫さされのうちでも皮がむけています。鼻の頭のかわもむけかけています。ぼくはひと皮どころか、何皮もむけそうな予感がしていました。